

# 三心を磨く

学校だより No. 9

令和4年11月18日(金)発行

須坂市立東中学校

文責: (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

## ◇◇◇◇◇ 後期人権教育月間 ～教頭講話より～ ◇◇◇◇◇

皆さん、おはようございます。今日は、校長先生に代わって、私が話をさせていただきます。

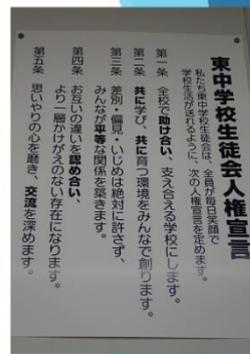
皆さん分かっていることですが、11月は「後期人権教育月間」です。1学期、前期の人権教育月間では「My人権宣言」を考えたり、クラスの人権宣言をみんなで決めたりしたと思いますが、その後、宣言に沿った行動がとれてきたでしょうか？毎日じゃなくても、ある場面で思い出したり、

意識したりすることができたでしょうか？今、友達と上手にかかわることができているのでしょうか？少しの気持ちのすれ違いで、背中を向けたりしていませんか。後期の人権教育月間ですから、先日のJRC交流委員会からの放送でもあったように、自分の行動を振り返ってみることができる、そんな機会になるといいなと思います。昇降口にも、東中学生徒会人権宣言の第1条、第2条の木が掲示されています。外にも、市の人権教育強調月間が始まって立て看板が出されています。

今日はスポーツの世界にも見られる人権にかかわることや、私自身の人権にかかわる意識などについて、皆さんに聞いてもらいたいと思います。こちらの画像「八村 塁」選手。知っている人もたくさんいると思いますが、NBAという世界最高峰とも言われるアメリカのプロバスケットボールリーグのワシントン・ウィザーズに所属して、活躍している日本人選手です。昨年開催された東京オリンピックでは日本選手団の旗手を務め、日本は「多様性を認め合える国」であるということ、世界にアピールできたという声もありました。でも、お父さんがベナン人（ベナンは西アフリカの国です）、お母さんが日本人ということなどから、実際には、幼いころから差別や誹謗中傷を受けてきたこともあるようです。ここのところの活躍は目覚ましく、毎日のようにニュースでも取り上げられていて、彼のプレーや活躍する姿を目にすると、私は単純に「すごいなぁ」「いよいよ日本人もNBAで活躍できる時代になってきたんだなぁ」と、さらなる活躍を期待するのですが、日本のスポーツ界で活躍する外国人選手を見て、ある気持ちを抱いたことがあることを、ときどき思い出します。

こちらは「箱根駅伝」。東京大手町から富士山のふもと、箱根の芦ノ湖までの217kmを、10人のランナーがタスキをつないで往復する、大学生

### 後期人権教育月間



ワシントン・ウィザーズ  
八村 塁 選手



の駅伝大会です。大変人気があり沿道には多くのファンが集まり、冬の風物詩とも言われていますので、皆さんも知っていると思います。私もテレビで毎年見ているのですが、30年ほど前から、外国人の留学生ランナーが、この箱根駅伝に出場するようになってきました。

こちらは「ジョセフ・オツオリ」という山梨学院大学、ケニアからの留学生ランナーです。引退後は指導者として活躍していたのですが、交通事故で亡くなってしまいました。各大学のエースが走るといわれる「花の2区」で、各校のエースを次々と抜き去っていく異次元の走りは当時話題となりました。画像のように追いつかれた選手が驚くくらいです。大変印象的なランナーで、私の記憶にも残っています。その後も留学生ランナーを迎え、山梨学院大学は箱根駅伝で複数回の総合優勝を果たす名門校となっていくわけですが、当時の私は「何だ、日本人だけじゃないじゃん」と思ったことがあります。



ジョセフ・オツオリ 選手



戻りますが、八村選手のように親が日本人ではないとか、将来の活躍や経済的にも豊かな生活ができるようになることを夢見て異国で頑張っている、国籍を変えてまで代表選手として活躍したいというスポーツ選手を見ると、「何だ日本人だけじゃないじゃん」、こんな気持ちを抱いたことがあることを時々思い出し、私自身にも「差別したり外国人を排除したりする目（芽）や気持ちが、心のどこかにあるんじゃないかな」と複雑な気持ち、少し不安な気持ちになることがあります。



差別や排除の目（芽）があるのかな？

「多様性を認め合う」。こういった面から考えると、とても開かれているスポーツだなど感じる種目があります。東祭の意見発表で題材にもなっていました、私もテレビで観戦するのが大好きな「ラグビーです」。この画像は、ラグビー日本代表です。日本の代表ですが、様々な人種、違う国籍の選手が選ばれて集まっているのが分かります。私は最初、2019年に日本で開催されたワールドカップで勝つための、日本の都合の良い代表選考のルールなのかと勘違いしていましたが、調べたり、聞いてみたりしてみると国際ルールで定められていて、他の国でも、多くの外国人選手が活躍し、代表となっているのが当たり前だということが分かり、大変驚きました。他の国（イングランド、フランス、南アフリカ）もこんな感じです。



#### 代表になるための条件

- 1 その国（地域）で本人が生まれた。
- 2 両親または祖父母の内の一人がその国（地域）で生まれた。
- 3 本人が36カ月以上継続してその国（地域）に居住している。

**OENFORALL  
ALLFORONE.**

ひとはみんなのために  
みんなはひとりために

ラグビーで、国の代表になるその条件は、「1 その国（地域）で本人が生まれた。」「2 両親または祖父母の内の一人がその国（地域）で生まれた。」「3 本人が 36 カ月以上継続してその国（地域）に居住している。」だそうです。「ある国で代表選手に選ばれたら、他の国の代表になることはできない」という条件もあるようですが、言い換えれば、その国（地域）のために戦うのが代表選手になれる条件、ラグビーでよく耳にする言葉「一人はみんなのために、みんなは一人のために one for all all for one」の精神を感じる部分だとも言われています。

さらに、ラグビーを見ていて、私が素晴らしい、なんでこんな振る舞いができるのかな？と思うのが、試合後の様子です。あれだけ激しく体をぶつけ合った直後でも、試合終了の瞬間には「ノーサイド」です。全てを水に流し、敵も味方も関係なく互いを尊重し合う。握手をしたり、抱擁し合ったり、相手選手に敬意を表して、花道をつくって拍手で送り出す姿も見られます。ラグビーが、まさしく「多様性を認め合う、開かれたスポーツ種目」だと感じさせられる部分ではないかと思います。

今日は、スポーツの世界から、私が感じる人権にかかわること、私自身の気持ちについて、ほんの少しの気持ちが、「差別」や「排除すること」につながることもあるんじゃないかな？という内容で、話をさせてもらいました。こういった「人権」だとか「人とのかかわり方」

については、スポーツの世界や友だちとの関係だけでなく、私たちの生活の様々な場面から考えられそうなことがたくさんあると思います。校内には、ポスターや標語が掲示されています。掲示物の内容にも時々目をとめて、人とのかかわりや言葉、自分のことを振り返ったり、見直したりすることができるといいかもしれません。そんな人権教育月間にしてほしいです。以上で終わります。



## 学校祭後も様々な行事や授業がおこなわれています

### 市内卒業学年親善音楽会（3年生） 10月13日（木）



市内4中学校の3年生が一堂に会し、親善音楽会が開催されました。他校に比べると少ない人数ですが、会場の人たちを感心させるほどの素晴らしい歌声をメセナホールに響かせ、「小さな学校の大きな合唱」を体験することができました。

### 焼き芋パーティー 10月21日（金）



生徒会の呼びかけにより有志が育て、学校祭で給食センターに贈られたものと同じサツマイモで、焼き芋パーティーが企画されました。学年関係なくレクで身体を動かした後、ちょうど焼きあがった芋をみんなでおいしくいただきました。



### 後期人権教育月間



